

1 単元名 NEW CROWN English Series 3 LESSON2 “Languages in India”

2 本単元の目標

- 受け身形を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉えることができる。（知識及び技能）
- 受け身形を活用して日本のものを紹介したり、そのものの良さについて説明したりすることができる。（知識及び技能）
- 海外に伝えるべき日本の特産品や体験活動について身近な環境に視点を移して考え、まとまった英文を用いてそのものの情報や自分の気持ち・考えを発信することができる。（思考・判断・表現）
- 海外に伝えるべき日本の特産品や体験活動について身近な環境に視点を移して考え、まとまった英文を用いてそのものの情報や自分の気持ち・考えを発信しようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

3 単元について

（1）教材観

インドの言語や多言語国家の生活、文化について関心を高めることを目的としている単元である。インドの通貨の単位がルピーであることを示したうえで、紙幣の挿絵を補助資料として生徒に多数の公用語に気づかせる設定になっている。インドの紙幣の表には主な公用語の英語とヒンディー語が、裏面にはウルドゥー語をはじめとする15言語が記されている。この単元の主人公のラージは3つの言語を話し、相手や場所によってそれらを使い分けている。このように通貨や日常的に話す言語、地理的要因などをもとに私たちの住む日本と比較させて理解を深めたい。また、この単元ではインド映画にも触れられている。インドの映画産業や使用される言語についての話題はもちろんのこと、花は映画を movie と言い、ラージは film と言っていることから想像できるインドの歴史的背景にも目を向けさせたい。

言語材料について、本単元では受け身形（be 動詞+過去分詞：～されています/～されます）の表現を学習する。「印刷されている言語」や「監督された映画」のようにインド文化と紐づけ、ドリルで反復練習しながら受け身形の表現を身につけていく。この表現で使用する過去分詞は2年生で現在完了を扱ったときに学習済ではあるが、直近の Lesson1 で現在完了進行形の学習をはさんでいるため、記憶があいまいになっていると思われる。再度復習し、定着を図る必要がある。

（2）生徒観

本学年の生徒は授業規律を守り、積極的に発音練習やペア活動、グループ活動をする生徒が多い。教師の発問に対する全体の反応はそう多くはないが、個々での会話のキャッチボールはスムーズに行うことができる。

年度当初は他者との活動に抵抗を感じる生徒や、学力が低く自身の発話や解答に自信が持てない生徒、他者との会話自体が難しくコミュニケーションに課題のある生徒も一定数いたが、日々その活動の目的や意味を伝えて活動し続けたことで、現在ではほぼ全員が問題なく活動できている。ペア活動やグループ活動を通して互いに声をかけあったり、教えあったり、わからないこと素直に伝えたりする姿が多くみられるようになった。グループ活動では全員が参加できるような課題または役割を与えれば多くの生徒は積極的に取り組むことができている。

授業ではテンポを意識して語りかけながら授業を展開し、活発さを生み出していこうと考えている。スムーズに英語学習へ移行できるよう、ウォームアップ活動は欠かすことができない。帯学習としてクラスで歌を歌ったり、ペアでの Q&A 活動を行ったりしている。

(3)指導観

本単元では、最初に受け身形の特徴やルールを生徒自身に気づかせて学ばせる活動を取り入れる。受け身形は「もの」を説明するのに非常に便利な表現である。柿の葉寿司などの食べ物や漫画、うちわ、ゆるキャラなど日本文化を紹介する英文を通して受け身形(be 動詞+過去分詞)の形に慣れさせていく。その際、教師の体験から英語での文化紹介が必要だった場面を語り、ライティング活動やスピーキング活動に目的意識をもって取り組ませるようにする。

次に教科書本文(GET Part1, 2, USE Read)を活用しながらインドの言語や文化を学ぶなかで、日本との共通点や相違点について考えさせ、生徒が改めて日本の良さに気づくような場面を設定する。そして日本から身近な環境(奈良)に目を向けて奈良の特産品や体験活動について考え、それらの良さや課題を見出していく活動を行う。

この単元のまとめとして、目的・場面・状況に合わせた英文を書き、インタビューやプレゼンテーションをする活動に取り組む。まとめた文章を書く活動が英文を書く「作業」ではなく「コミュニケーション」となるよう、伝える相手を想定して行うことに気をつける。インタビュー活動は外国からの観光客や留学生を対象に行い、そこでの気づきを持ち帰って報告し、新商品、改良商品、パッケージデザインのような新たなものを生み出す活動につなげていく。プレゼンテーション活動はクラスメートだけではなく留学生へも行い、発表を通して各々の学びが生きる場を作っていく。可能であれば、生徒が生み出した案を地元企業へ提案し、コラボ商品や商品のパッケージ化につなげたり、再び奈良公園へ出向き、観光客など外国の方に商品をおすすめする活動を取り入れたりして学びを行動化させたい。

これら一連の活動を通して、ものの価値を金額や人気だけでとらえるのではなく、ものづくりに携わる人の存在や購入者の心の動きからもとらえることができると気づかせることが重要な目的である。もので満たされた幸福感に加え、心のつながりから生まれる幸福感とはどのようなものかをじっくり考えていく。また奈良の良さを知っているからこそ、生徒は活発にアウトプット活動ができるはずである。よって奈良の魅力を再認識し、伝統や文化を大切にする姿勢を身につけさせたい。

最後に、言語活動の方法についてまとめる。言語活動はペア活動、グループ活動、クラス全体での活動など学習内容や場面、目的によって活動メンバーを編成していく。受け身形の導入ではグループ活動を通してターゲットの文法を使用しながら意味を推測し、きまりや特徴を見つけ出す活動を取り入れる。一人一人の役割を明確にして活動する必要性と責任をもたせるとともに、グループの仲間と協力して課題に取り組む姿勢を大切にしたい。

課題である英作文はペアやグループで共有し、新たな気づきを得たり自らの英語が通用するという自信を持ったりできるような場面を作る。仲間との関わりを大切にし、発表活動を通して言語活動を充実させ、適切に考えていることを表現する力やコミュニケーション力を身につけさせたい。英語学習を通じてクラスメートという他者とつながり、一人一人が自己存在感を得られるようなウェルビーイングを高める授業展開を目指す。

(4)ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

多様性…日本そして私たちの身近には、伝統や歴史、特産物を生かしたものなど、残していきたいものや良さがある。

相互性…お土産や体験活動には売り手や作り手と購入者や体験者との心のつながりがある。

有限性…伝統や文化を大切に受け継いでいかなければ、いつかなくなってしまうかもしれない。それぞれが持ち合わせている魅力もなくなってしまうかもしれない。

・ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

批判的に捉える力(クリティカル・シンキング)

奈良に限定すると、シカや大仏というワードや絵を用いたお土産が多く、奈良の特産物が生かされたお土産や体験活動が少ないことがわかる。当たり前に身のまわりにあるものに再度目を向けそのものの特徴や良さを考える。

コミュニケーションを行う力

インタビューをすることで外国の方の考えを聞き、他者の意見を尊重する。

人と人との対話だけではなく、お土産や体験活動が奈良と外国の方をつなぐ架け橋になるというような、人ともとのつながりも大切にする。

他者と協力する態度

グループのメンバーと協力して英文を考えたり、プレゼンテーションしたりする。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

人権や文化を尊重する(文化多様性の尊重)

寺や神社だけではなく、特産物やそれに携わっている方々への視点も持ちあわせ、大切にしなければならない。

幸福に敏感になる。幸福感を重視する。

物質的な幸福感は心を満たすが、人々とのふれあいや体験活動などを通して得られる幸福感は長く記憶に残り、双方の心をより満たすものである。

・ 達成が期待される SDGs

8 経済成長と雇用 1 1 まちづくり 1 2 生産と消費

5 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①受け身形の特徴やきまりに関する事項を正しく理解している。 ②受け身形を活用して日本のものを紹介したり、日本の良さについて自分の言葉で伝えたりするなど、情報を発信する技能を身につけている。	①インドについて書かれたまとまった文章を読み、日本と比較しながら概要を捉えることができている。 ②海外に伝えるべき日本の特産品や体験活動について、身近な環境に視点を移して考え、発信できている。	①インドについて書かれたまとまった文章を読み、日本と比較しながら概要を捉えようとしている。 ②海外に伝えるべき日本の特産品や体験活動について、身近な環境に視点を移して考え、発信しようとしている。

6 単元の指導計画 (全 12 時間)

次	主な学習活動	学習への支援	評価(△)
1	○受け身形を理解する。(肯定文) ・ グループワーク(ジグソー法)を通して、受け身形のルールや使い方を理解する。 ・ 情報発信者として日本のものを紹介する。 (例) <i>Kakinoha-zushi is eaten in many areas.</i> <i>It is especially seen in Nara.</i>	・ ジグソー法を通して多くの例文に触れ、受け身形のルールに自分たちで気づけるようにする。 ・ 日本のものを英語で説明する必要性や場面を伝える。	△ア 1

2	○受け身形を理解する。(疑問文・否定文) - 受け身形のルールや使い方を理解する。 - 能動態と受け身形における焦点の違いを知る。 - ペアワークを通して、受け身形を活用した英文を話したり書いたりする。 (例)Are these chopsticks made in Nara? - Yes, they are.	- be 動詞の疑問文・否定文を復習し、受け身形の定着を図る。 - 日本の特産品をいくつか紹介し、活動へのアイデアを提供する。 - 日本へ目を向けて、その魅力に気づく機会とする。	△ア 1 △ア 2
3	○文化の違いを理解する。Get Part1 & 2 - 教科書本文を読み、受け身形の使用場面を理解する。 - インドの紙幣や映画を通じて、日本文化との共通点や相違点を知る。	- 発問によって気づきを促す。 (例)How many languages are on the note? - 紙幣や映画に加え、食文化や産業にも触れる。	△イ 1 △ウ 1
4	○説明文の概要を捉える。USE Read - 教科書本文(説明文)を読み、あらすじをつかむ。 - TF 問題や英問英答などの問題演習をする。	- 段落ごとにキセンテンスを見つけ、概要を捉えやすくする。 - 発問の難易度に変化をつけ、理解度をはかる。	△イ 1 △ウ 1
5	○説明文の概要を捉える。USE Read - 言語を通して多様性とはなにか考える。 - 自分のまわりで、誰がどのような場面でどのような言語を使っているかグループで話し合い、英語で説明する。	- 日本における様々な多様性の例をひきだす。 - 視点を日本から奈良へ、または身近な場面へ向けるよう促す。 (例)車内アナウンスなども含む	△イ 1 △ウ 1
6	○目的・場面・状況に応じた文章を書く。 - 奈良の特産品について調べ、それらを受け身形を交えた英語で表現する。 - 個々の体験をもとに、心に残るお土産とはどのようなものかをグループで話し合う。 (ハッピー体験の共有)	- 写真等を提示し、奈良には多くの外国の方が住んでおり、観光客も多いことに気づかせる。 - 即興で会話できるようヒントを提示する。 - 体験の背景にある共通点を探るよう促す。	ア 1 イ 2 ウ 2
7	○インタビューの準備をする。 奈良の特産品やお土産、体験活動について尋ねたり説明したりする文章を英語で書き、グループで共有する。	英作文が作業ではなくコミュニケーションとなるよう、インタビュー相手を提示する。(留学生や観光客)	イ 2 ウ 2
8	○インタビューをする。 グループごとに大学の国際交流室や奈良公園へ出かけて英語でインタビューする。	役割を決め、生徒個々にインタビューする機会を設ける。	イ 2 ウ 2
9	○新しいお土産やブラッシュアップしたお土産を考える。 - インタビュー結果を報告し考察する。 - 特産物を生かした奈良ならではのお土産や体験活動を考え、紹介する原稿やスライドを作成する。	- 聞き取った内容から共通点や疑問点を見つけ出すよう促す。 - 英文には受け身形を使用する。	ア 1 イ 2 ウ 2
10 11	○プレゼンテーションの準備をする。	グループ内で役割分担されているかよく観察しておく。	ウ 2
12	○プレゼンテーション(発表)する。 - 作成した原稿とスライドを用いて発表する。 - 留学生のコメントを聞き取る。	クラスメートと留学生に向けて発表する。発表後は投票を行い、フィードバックして学習内容を深める。	ア 2 イ 2 ウ 2

※可能であれば、地元企業とのコラボ商品やパッケージ作りを行う。